

青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
青森中央短期大学附属第一幼稚園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



日本庭園「三思園」前
撮影：青森中央学院大学3年 Hoang Thu Thuy

青森中央学院大学OBねぶた師 外崎 白鴻さんに聴く
翔麗祭


vol.82

特集

青森中央学院大学OBねぶた師
外崎 白鴻さんに聴く

目次

特集：
青森中央学院大学
OBねぶた師
外崎 白鴻さんに聴く 2

特集：
翔麗祭 4

青森中央学院大学 6

- ・中村信吾学長を偲んで
- ・市町村長リレートーク
- ・青森知事選挙における本学の学生活動
- ・地域商社プロジェクト
- ・ノーベル平和賞受賞
- ・ムハマド・ユヌス氏セミナー同行
- ・国際交流センターより
- ・サークル・ライブ
- ・ゼミ探訪
- ・私の1冊
- ・OB通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学 10

- ・看護学科開花式
- ・在学生が大活躍!!
- ・オープンキャンパス
- ・創立記念行事—運動会—
- ・食育啓発活動推進中!
- ・平成23年度青森中央短期大学第1回FD研修会
- ・公開講座
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園 14

- ・幼稚園の特色を生かした活動の様子
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本
- ・卒園児頑張っています

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 16

- ・訃報 櫻庭せつ子名誉校長御逝去
- ・職場実習・インターンシップ体験記
- ・専修学校准教員資格認定研修会
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

インフォメーション 18

本号の特集は、青森中央学院大学第2期生で、青森ねぶた師として活躍される外崎白鴻さんに聴きます。この7月には、朝日新聞地方版でも大きくとり上げられるなど、新進ねぶた師として大いに注目を集めています。その白鴻さんが、久しぶりに母校へ来校、インタビューに応じて下さいました。

——白鴻さんのねぶた歴を教えてください。

小学校4年からなので、通算21年になりますか。「誠和会」という子どもだけのねぶた制作会（愛好会？）を地元五所川原で、友人と作ったのがきっかけです。勿論、もっとうずっと幼い頃から、うちは家族揃ってねぶたには格段の愛着を持って応援してきましたから。ただそれまでは受け身で馴染んでいたのが、自分達で作るんだという発信者側に回ろうと記念すべき試みを実行したこの時を、私のねぶた元年としています。

——在学中もねぶた推進のためにいろいろ活躍されてましたよね。

本学の囃子方部を作ったのは私です。新しい半纏を作って、囃子方部を組織し、卒業の年には、自分達独自のねぶたを出したいと奮闘しましたね。大学から許可を得て、もう張り切って制作しました。徹夜で朝5時まで、夢中で制作に没頭したものです。出来上がって自分達のねぶたが出せた時には、格別の思いでしたね。その囃子方部が、今も続いているのは嬉しい限りです。

——その在学中にねぶた師としての道を踏み出したんですね。

種本鴻生師匠に弟子入りしました。4代目名人の鹿内一生師匠の弟子が種本師匠、その弟子が私ということになります。「我生会」という2大流派の1つです。弟子入りを許された時は、自分でも信じられなかったですよ。非常に難関なんでね。下絵を描くという宿題がありましてね、3枚描いて師匠のところへ持っていくわけです。そうすると、ここが良くないと言われて「来年、直して持ってこい」です。私は宮本武蔵を描いて持って行った。そしたら「来年、違う題材で描いて来い」って言われて、翌年、持っていったらパス。嬉しかったなあ。特にあおもりねぶた師に、よそ者の五所川原から入れてもらえるなんてことはないことでしたから、とにかく嬉しかった。

——そこからお弟子さんとして修業を始められた。

職人の世界ですよ。厳しいのなんのって。金づちは飛んでくるは、罵声は飛ぶは。台上げの前の日に、容赦なくねぶたにばちばちとペンチを入れて、組み立てたものをばらばらにするんです。明日は台に載せるっていう前の日にですよ。仕方ないから徹夜で直す。私も骨まで仕上がってからペンチを入れられたことなら何度もあります。だけど師匠の言う通りなんです。ペンチを入れられるのはよくないからなんです。骨の状態で、仕上がりが具合の善し悪しが師匠にはよく見えてるわけですよ。腕が上がると態度で認めてくれていることはわかるんですが、口では褒めてくれないんです。今の若い人達にはわからないコミュニケーション形態でしょうね。とにかく厳しい。しかしやめようと思ったことは一度もありません。

——題材はどうやって選ぶのですか。

本・映画・時代劇・美術館で掛け軸、浮世絵を見たりとあらゆるメディアにあたりますね。画集だけでも1冊10万円なんて大きな買い物をしたりするものですから、財布の中はいつも厳しい状態です。最近のねぶたの風潮として、年々華美になっていく傾向にあります

が、ねぶたは華やかさだけでは迫力は絶対に出ません。ねぶたの核心というのは、描かれた場面が見た人に有無をいわさずぐっと入りこんでくる衝撃のようなもの、迫力っていうのかな、それです。余計なものが排除された衝撃そのもの、それがねぶたの核心です。昨今の作品は、場面のあちこちに散りばめられる付属品、装飾品が多過ぎて、そちらに注意を向かせるあまり、本来の迫力を弱めているような気がします。ちょっと違和感がありますね。

——どのような題材が好きですか。

武者も好きですが、昔の絵師をテーマにしたものなんか作ってみたいですね。絵師が馬の絵を描いて、その絵があまりにもリアルで、しまいには実際の馬になって絵から飛び出さってというそんな瞬間を描いてみたいですね。絵師にセルフ・アイデンティティを投影してしまうという絵師としての宿命なんですかね。

——ねぶた作りで最も難しい部分は何でしょう。

顔を描くのが1番難しいんです。ほんの数ミリ筆運びがずれただけで、表情がまるっきり変わってしまうので。顔こそ絵の魂なんです。特に目ですね。ねぶたを見る時、先ず顔、顔の中でも目にいくでしょう。だから目を描く時は、精根こめてというので、一番集中出来る時、職人が皆帰ってしまって、誰もいなくなってから。静まり返った時間、空間の中で入れる。

——ねぶたのために今後、どんな活動が必要だと思いますか。あるいは、どんなことをしていきたいと思いますか。

先ず、若手のねぶた師育成のための施策が必要です。このままだとじり貧になっていきますから、早急に手をうっていく必要があるでしょう。それともう1つ、どうもねぶたの安売り傾向があるような気がして案じられるんです。何かって言うと安易にねぶたを出すって風潮がありますよね。安易なねぶたの出前を続けると、ねぶたの価値をどんどん下げていくようなそんな感じがしてならないんですよ。いわゆる安売りっていうのかな。本来のねぶたは年に一度、夏の夜の一期一会的なものであるべきじゃないのかなあって思うんですよ。あるいは彗星のごとく東の間立ち現れては、また次の夏まで夜空の果てで眠っているっていうイメージで、それを壊さないようにすることでねぶたの価値が保てるような気がするんですけどね。

——最後に、白鴻さんにとってねぶたとは何ですか。

自分が自分を最も表現できる場であり、媒体です。

皆さん、ねぶた祭で白鴻さんを見かけたら、「白鴻さーん」と声をかけて下さい。「よおっ！」と笑顔とともに威勢のよい挨拶が帰ってくると思います。ぜひ、応援して下さい。



ねぶた下絵を描く白鴻さん

特集

翔麗祭

New Generation
テーマ:「進☆時代」~With your smile~



学友会のみなさん、
お疲れ様でした！
来年もよろしく♪



たこやき2個、
買っちゃって
下さい☆



楽しい演奏を
ありがとう♪
皆ノリノリ
でした
＼(*°ω°*)／



9月17日(土)・18日(日)開催



大 成 功

Yeah! \ (^o^) /



終始ハイテンション↑↑
会場が熱気に包まれました!



テーマはイギリスの
ロイヤルウェディング
です♪



(取材&レイアウト 太田 諭志 木村 翔太 柳谷 優衣)

青森中央学院大学

中村信吾学長を偲んで

青森中央学院大学学長中村信吾先生が、5月9日急逝されました。

先生は、平成17年1月1日から青森中央学院大学第3代の学長として就任され、本学の教育・地域社会活動の振興にあたってこられました。特に、平成21年度に実施されました本学にとって初めての大学機関別認証評価の受審にあたっては、先生自らが先頭に立ち、評価機関である財団法人日本高等教育評価機構から大学として評価基準を満たしているとの認定を受けるなど、積極的に教育改善に取り組んでこられました。

また、先生は、温厚にして明るい人柄で、多くの教職員・学生より敬愛されていただけでなく、青森地域大学連携協議会の議長を務め、青森地域の大学・短期大学の連携に強いリーダーシップを発揮されました。

5月の連休に札幌からお電話をいただき、5月12日に実施される高等学校教員対象の進学説明

会には必ず出席するからと、いつもの元氣な声が最後でした。5月29日、本学教職員・学生他関係者多数の出席のもと、告別式、偲ぶ会が行われ、最後のお別れを致しました。

心からご冥福をお祈りいたします。

(事務局長 齋藤正彦)



中村信吾学長略歴

昭和44年3月	農学博士（北海道大学）
昭和44年3月	弘前大学講師
平成12年4月	弘前大学副学長
平成15年4月	弘前大学名誉教授
平成17年1月	青森中央学院大学学長・教授

市町村長リレートーク

平成20年度、大学の一層の地域貢献を目的とした学生と市民がともに学ぶ公開講座「市町村長リレートーク」をスタートさせた。趣旨は地域における様々な課題について市町村長が何を考え、どのような具体的な施策を講じているかを探り、今後における地域マネジメントのあり方について学ぶことである。

4回目となる今年度も統一テーマをこれまで同様、「人づくりと地域社会」として、講師に、十和田市長の小山田久氏、北海道松前町長の前田一男氏、藤崎町長の小田桐智高氏の3名を迎えた。各回において、講師は地域に対する想い、町づくり・人づくり等地域に根ざした施策について熱弁をふるい好評を博した。



青森知事選挙における本学の学生活動

6月5日、青森県知事の選挙が行われた。近年、若者の投票率が著しく下がっている。更に青森県の投票率は全国から見てもかなり低い水準にある。

そんな選挙の惨状を見かねた本学3年生の竹内博之さんら10人の有志たちが立ち上がり、学内の投票率を100%にしようと動き出した。彼らは、選挙についての意識改革として「20歳になったら選挙に行くのは当然のこと。選挙に行かないのは格好が悪い」と謳う。この活動により本学でも知事選挙があることすら知らなかった学生たちが選挙に興味を持ち始めている。

そもそも竹内さんがこの活動を始めた原点は何だったのか。それは、竹内さんが初めて投票した地元の弘前市議会議員選挙で彼は選挙で若者の投票率の低さに危機感を持ったことだった。今回の活動の反省点として竹内さんは、もっと早い段階で活動し、また他の大学でも行えばよかったと話している。

(学生記者 高桑 健基)

地域商社プロジェクト

地域マネジメント研究所では、タイ産マンゴーの輸入販売を試験的に実施してきたが、その過程で地域における商社機能の体制未整備が問題となった。首都圏などに商社機能が集中して、地方圏では貿易リスクを担う商社が不足している状況である。また、取引量の少ない商談には中央商社の関心は薄く、地方の中堅・中小企業の貿易チャンスが失われているといえる。わが国政府はグローバル化時代の経済政策として成長著しいアジア圏との貿易促進を掲げている。少子高齢化社会にあっては、消費市場が拡大している国外とのビジネスが不可欠という考えである。そこで、地域マネジメント研究所では地方圏における地域商社のあり方について、地域の行政や産業界の方々と共に研究会をスタートさせている。現在、青森県にふさわしい地域商社像を模索しているところである。

(地域マネジメント研究所所長 内山 清 教授)

ノーベル平和賞 ムハマド・ユヌス氏セミナー同行

2006年のノーベル平和賞受賞者、ムハマド・ユヌス氏（バングラディッシュのグラミン銀行創設者）のソーシャルビジネス（略称、SB）セミナーに参加しました。SBとは、ビジネスの手法を用いて社会問題の解決を目指すもので、政府や慈善団体の活動の間隙を埋めるものとして、今後が期待される新しい分野です。東京と福岡での今回のセミナーは、SBを活用した「東日本大震災被災者自立支援」がテーマです。私が顧問を務めるソーシャルビジネス研究サークルでは、SBの研究と応用を目的として、地域・学内の課題の解決を目指すプロジェクトを推進しています。そのご縁でサークルのメンバーと共に今回のセミナーに招待されました。

今回のセミナーを通して、本サークルは地域・学内のプロジェクトのほかに、新しく震災復興プロジェクトを立ち上げ、現在、東北大学やNPOの方々と連携し、東日本震災復興への貢献を目指す活動に取り組んでいます。

(地域マネジメント研究所 NGUYEN CHI NGHIA)

国際交流センターより

ジュニアグローバルトレーニングスクールでボランティア活動

青森市内、アメリカ、韓国から集まった小学生に震災被災地の小学生を加えて8月5日～7日、開催されたジュニアグローバルトレーニングスクールに、本学から留学生と日本人学生、あわせて19名が参加、運営と通訳のボランティアとして活動した。

留学生人材活用推進事業での取り組み

青森県観光国際戦略局国際経済課と県内企業、県内大学の産官学連携による事業に留学生が積極的に取り組んでいる。

7月26日に開催された留学生人材活用普及啓発



セミナーにおいて、県内企業と意見交換を行い、8月から県内企業見学会・イン

ターンシップ参加、9月からはブログ発信のための県内各地の取材を開始、テストマーケティングもスタートする。

語学サポーターの活動

国際語学サポートセンターでは、地域の要請に応じて、留学生による語学サポーターを派遣している。

学内では、一般人対象の語学教室や海外留学を目指す本学学生対象の語学準備講座の講師として、学外では、青森市立造道小学校と青森中央高校の総合学習の時間に留学生をゲストティーチャーとして派遣し、母国の文化、習慣、言葉、料理などを紹介している。



サークル・ライフ Vol.2

ねぶた囃子方部

ねぶた囃子方部は部員23名のサークルで、留学生も多く、国の垣根を越えて活動中である。主に、8月のねぶた運行本番に向けて練習をしているが、子どもたちへの囃子の指導や、黒石神社や三思園等の老人ホームでの演奏ボランティアなど県内で幅広い活動を行っている。また、囃子方部のOB、OGも仕事が休みの時には活動に参加し、年齢層も幅広い。例年ならば8月の運行は、公立大、青大の囃子方部と連携して活動するのだが、今年度は各学校の日程の都合上それが叶わず、本学の囃子方部のみでの運行となった。しかしめげずに、部長を筆頭に、OB、OGの先輩方の援助の下、全部員が奮起して準備活動を行い、見事ねぶた運行を大成功に導くことが出来た。



(学生記者 増井 誠也)

私の1冊

丹藤進先生

『忘れられた日本』

ブルーノ・タウト 著 篠田 英雄 翻訳
(中央公論新社,2007(創元文庫1952年の復刻版))

ドイツの建築家タウトは、1933年から3年半日本に滞在した。その間、日本の建築や文化を批評し、また流れゆく四季と織りなす生活者に美意識を独自の眼差しをもって論じた。円熟の極地に完成度の高さから、桂離宮はアクロポリスに比しうる世界的な古典建築であると評し、あらゆる日本的なものの標準になると看破した。

タウトによるこのような執筆活動は、日本人の自信と誇りを大いに刺激したことであろう。1952年の初版は「忘れられた」という反面と「発見された」日本になってしまったのでしょうか。大震災で「発見された」日本人の気質が報道されたが、タウトが残してくれたことは、人、物、自然に対する美醜、正邪の感覚には、「独自の洞察力と備えた眼」を養うことの大切さである。

ゼミ探訪

丸山愛博ゼミ

丸山愛博ゼミでは、民法上の事例問題についてゼミ生が取り組み、毎週三人程度に分かれた報告班がその事例問題について報告書にまとめ、その答えに至った根拠等を発表していくといった形式でゼミ展開がなされている。

事例研究に取り組みながら、広く法律を学ぶことができる。それは、講義で学んだものの復習であったり、新たに知るものであったりとさまざま充実した内容である。

また、ゼミ合宿を行ったり、刑務所訪問をしたりといった取り組みを実施し、今年は、函館にも行った。普段のゼミと違い、準備期間が長いこと、時間を気にせず議論を展開できたことから、非常に有意義なものとなった。こうした取り組みは一方で、人とのコミュニケーション能力を高めることにつながる。活動的な大学生活を送りたい学生にはお薦めである。

(学生記者 川崎 春菜)

OB 通信



拝啓 青森中央学院大学様

現在、私は日本トイザらス株式会社で、ストア・マネージャーとして十数人のスタッフを取りまとめ、キャラクター玩具・自転車・ゲームを中心とした商品を担当しています。お客さまに気持ちよく買い物を楽しんで頂くために、レジ業務や商品陳列をするスタッフへの指示やトレーニングを行います。大学で学んだ経営学を通して、培った知識と経験を活かし、業務に取り組んでいます。

後輩の皆さん、長く続く就職氷河期や震災の影響で就職活動が困難だと思いますが、決して諦めないで下さい。私が社会に出て実感したことは『継続は力なり』ということです。ありきたりの言葉かもしれませんが、成果に繋げるためには一番重要なことだと思います。在学中は知識を蓄えるだけでなく、サークルや課外活動など、様々なことに積極的に挑戦して下さい。その経験は必ず自分の糧となって、役に立ちます。

敬具

第10期生 佐川 善如さん

突撃! 教えて! 先生 その1

第1回目は、青森中央学院大学石田憲久学長代行です。

—大学生の時に努力したことを教えてください。

学業ではゼミ活動に懸命に取り組んだ。ゼミ担当教授や仲間との親交は現在にわたり続いており、様々な場面で助けられている。また、家庭教師のアルバイトを4年間行った。

—幼いころの将来の夢を教えてください。

幼年の頃は、野球選手になりたかった。

—大学の時にしておけばよかったことを教えてください。

語学の習得、海外留学、ボランティア活動等、比較的自由な時間の取れる学生生活をもっと有効に生かせればと反省している。

—学生に求めることを教えてください。

前述の質問を踏まえ、留学・ボランティア・各種プログラムへの参加・旅行など、大学生時代に自分の興味のある課題を見つけ、勇気をもってチャレンジしてほしい。また、地域の事、世界の事に興味を広げてほしい。

(学生記者 太田 諭志)

～若者歩き～

Vol.1

今回紹介するのは青森市古川にある喫茶店「エルム」である。エルムといったら大きなパフェ。初めての方はその迫力に圧倒されること間違いなし。50種類ものパフェは甘いもの好きにはたまらない。しかも、パフェを頼むとメロンソーダがついてくるというサービスが嬉しい。パフェ以外にもパスタやピラフ、ドリア等のメニューも豊富だ。お店の外装は淡い緑色、内装はとても落ち着いた雰囲気である。日・祝は閉店が早いので要注意。場所は、国道を駅へ向かい、県庁通りの次の道を左に曲がる。有料だが駐車場が隣にあるので車でも安心だ。家族連れ、サラリーマン、高校生などたくさんの世代の方、男女問わずに人気のお店である。エルムでホッと一息ついてみてはいかが。

(学生記者 柳谷 優衣)

住所：青森市古川2-9-8

TEL：017-776-6125

営業時間：

月～金 8：00～21：00

土 11：00～21：00

日 11：00～16：00

祝 11：00～17：00



異文化を考える Vol.1

第1回はベトナム人留学生に聴きます。

—留学のきっかけ

留学したほうがベトナムに帰ったとき良い職業に就けるから。

—日本(青森)にきて驚いた文化、会話

津軽弁と飲み会。割り勘制度に驚いた。

—自分の国との違い(文化・慣習等)

ベトナムでは乾杯したら一気呑みをする習慣がある。

—自分の国に誇りを持っているか?また、それはどういうところか?

ベトナムの国民は皆、自分の国のことを誇りに思っている!戦争でアメリカに勝って自由になれたし、人々は親切で、特に親戚に何かあったときは最後まで助け合う面がある。

—ベトナムの政治的、経済的な問題を教えて!

インフラの未整備やインフレが激しい点。また、給料が少しずつしか上がらないのに物価の上昇が激しいというところ。

—ベトナムで流行っていることは?

K-pop、韓流ドラマ、海外のファッション等、海外の文化。(学生記者 川崎 春菜)

♪トレンドキャッチャー♪ Lv.1

最近、飛躍的にその数を増やしてきているスマートフォン。スマートフォンは、携帯電話とノートPCとの中間的な立ち位置にあり、搭載できる機能が飛躍的に増加したことや、電子書籍の普及が進んでいることなどで注目を集めつつある携帯端末である。そのスマートフォンの魅力として挙げられるのは、なんといっても豊富なアプリケーションである。携帯電話にもアプリケーションは存在するのだが、スマートフォンの場合ダイエットを管理し助言してくれるアプリや、時間割を記憶し、出席回数をカウントするアプリなど携帯以上の便利さを幅広く手に入れることができる。まさしくスマートフォンを「自分らしく」することが可能なのである。これを機に自分に合ったスマートフォンを探してみようか。

(学生記者 太田 諭志)

ユーザー率

- ・携帯電話 61%
- ・スマートフォン 39%

スマートフォン内訳

- ・docomo 42%
- ・au 37%
- ・softbank 21%



青森中央短期大学

看護学科 開花式

8月1日、看護学科2年生96名が志を新たにしました。開花式は、看護職としての志を再確認し、看護に対する誇りと責任を醸成することを目的とし、本格的に看護の専門領域の実習が始まる前に行われます。

これからも卒業まで幾多の関門が待ち受けています。壁にぶつかった時には、開花式での誓いを忘れず乗り越えてほしいと切に願っています。

(2年アドバイザー 木村 千代子 准教授)



開花式体験記

開花式実行委員リーダー 千嶋 あかね

約4ヶ月にわたって計画し携わってきた開花式が、クラス全員の協力により無事終わることができホッとしました。ナイチンゲール像の前に立ち、ローソクから火を受け取った時は、『精神』を受け継ぐという意味でとても神聖な気持ちになりました。本当に患者さんに寄り添い、患者さんの苦しみや悲しみを一緒に分かち合える看護師になりたいと思いました。2年生全員が初心にかえりこれから始まる実習に向けて気が引きしまったと思います。



在学生が大活躍!! オープンキャンパス

短大のオープンキャンパスでは、在学生にも協力してもらっています。特に7月9日に行われたオープンキャンパスは、ちょっとした学園祭のような賑わいとなりました。準備段階で協力の呼びかけに何名もの学生が集ってくれ、参加者が集まりやすいように自分達の学科のブースを作ったり、自己紹介用の名刺を作ったりと、楽しみながら準備をしてくれました。そして当日、自分から積極的に高校生に声をかけ、校内を案内したりしてくれました。そのような在校生の姿をみて本学に入った学生が、次は高校生の案内役になろうと志願してくれる。そのような伝統ができてきていることを実感しています。

(広報委員長 高橋 佳子 准教授)



創立記念行事—運動会—

6月4日、創立記念行事である運動会を開催しました。先輩方から受け継いだことを基に、種目内容の変更、ルール改善を行い、公平に競技が進行できるよう考え、各学科、学年問わず協力し合い、準備を進めてきました。

当日は天候にも恵まれ、学科・学年問わず交流が深まり、充実した運動会になりました。卒業年度の学生にとっては最後の運動会となり、学生生活の最高の思い出になったことと思います。

1年生は当日までの準備、実際の運営について学んだことを忘れず、来年はさらに最高の思い出を作れるように頑張ってください。運動で深まった絆で、さらに多くの思い出を作りたいと思います。

(学友会会長 沖口 大貴)



食育啓発活動推進中！

「青森県地域に根ざした食育活動推進業務」も1年が経った。6月に開催した「食育フェスタあおもり」では、保育園関係者が多数来場し、「来てよかった」「教材を使いたい」等の嬉しい言葉を頂いた。

今年度は10月14日現在で126件の申込を受けている。県産品の調理教室や市場見学、食育教材での指導等、内容は様々である。食育教材も16種類に増え、貸出も行っている。人気の食育教材は、私達以上に県内を飛び回り、特に箸の持ち方指導に使う1mの大きな手のマスコットは迫力があると評判である。これからも食育が身近に感じられるよう、頑張っていきたい。

(食育コンシェルジュ東青地区担当 佐藤 綾香)



平成23年度 青森中央短期大学 第1回FD研修会

さる9月8日、3学科合同のFD研修会が開催されました。37名の参加者があり、当日は「学生が授業の理解を深めるための工夫」と題して教員職員問わず、このテーマに対して、2時間にわたって真剣で熱心なグループ討論がなされました。

「授業内容に対して興味を持たせることが学生の理解を喚起することに繋がる」や「学習環境を整備することが学ぶ姿勢を育てる」など多くの意見が出され、熱い思いを持って普段の授業に臨んでいる教職員の姿勢を改めて確認しました。

終了後のアンケート結果には「他領域の先生方の授業の工夫を知ることができた」、「教員以外の視点から学生への関わり、支援方法を確認できた」など今回の研修の目的に沿った感想が聞かれました。そういう意味で非常に有意義な研修会となったことを報告します。

(大学活性化プラン策定委員 工藤 久 准教授)

公開講座

子どもの食品加工講座 さけるチーズを作ろう！ 6/11 開催



小学生を対象に行われた本講座では、原材料のヨーグルト・牛乳・レンネットから「さけるチーズ」作りに挑戦した。当日は、残念ながら時間の都合上、講座内で「さけるチーズ」完成までには至らなかったが、受講者は楽しみながらチーズ作りに取り組み、帰宅後に完成させたいという声が聞かれた。

Feel ～やすらぎの香りと楽しみ方

「おいしいコンサート～コーヒー講座とアフタヌーンJAZZ～」9/4 開催



前半で自宅でおいしいコーヒーを淹れるコツを、後半はコーヒーを手にジャズ演奏に耳を傾け、穏やかな午後の時間を楽しんだ。

「癒しのアロマハンドマッサージ」9/10 開催



オイルの解説、アロマオイルでのリラクゼーション法を学んだ後、2人一組となって、ハンドマッサージを体験した。癒しの香りに包まれながらのマッサージで、リラックスしたひと時を過ごした。

先生の自分史「私の教員生活を振り返って」

食物栄養学科 久保 富男先生



私の教員生活の始まりは、昭和41年で、最初の赴任地は下北へき地複式学校でした。当時の校長曰く「ここには、教育の原点がある。いい所へ来ましたね」ですが、どういうことか分からず、連日、口角沫をとばして、「授業で勝負だ」の心意気で取り組みました。

その後、青森へ転任、校内暴力が吹き荒れた昭和50～60年、そしていじめ、不登校が目立った平成時代を経験しました。当時は、世の中全体で親も教師も子育てに自信をなくしていました。同僚の間には、「できれば荒れた学校へ異動したくないね」とか、教職を目指す学生の間からも、「学級担任をはずして欲しい」という風評までありました。保護者から、「教師が自信を失ってどうするか」と喝を入れられたことを思い出します。

さて、本学で教職を目指す諸君、この大変な時を乗り切る力量とは何か。語り合いたい。

読んで欲しいこの1冊

幼児保育学科 松浦淳先生

『発達の子・上 子どもの発達の道すじ』

白石正久 著 (かもがわ出版, 1994)

「すべての大人は、かつてはみんな赤ちゃんであり、子どもでした」そんなことを言われると、多くの方は「それは当たり前だ」と思うことでしょう。でも、縁あってこの世界に来た子どもたちが、手探りで少しずつ係わる相手や場所を増やし、安心できる居場所を手に入れ、そしてやがて誰かの力になっていくこと、そして「社会」を形作る一員となっていくまでの間には、「当たり前」では済まされないドラマが満ち溢れています。

子どもに係わる・係わらないを問わず、大人になった(はずの?)自分を振り返ってみたい、という方は、ぜひご一読ください。幼児期のドラマ、葛藤のすべては「必要だからあるんだな」ということを、この本を通じて確かめることができると思います。

研究室を訪ねて

～村山志津子研究室～

村山先生は、見やすい資料や認定看護師としての経験を交えて教えてくださり、私達の看護観を深めてくれます。村山研究室には足繁く通い、実習中は夜遅くまで指導していただき、記録を仕上げたこともあります。3年生は、実習、就活、卒業研究、勉強と悩むことも多いですが、研究室に行く度に丁寧で的確なアドバイスをいただけるので、とても心強いです。研究室は常に明るい雰囲気、アロマの効果でいい香りもします。美味しいコーヒーとお菓子も人気です。リラックスして研究や勉強に取り組むことができ、とても居心地の良い研究室です。(看護学科3年 小沢 桂子)



卒業生も活躍しています

専攻科福祉専攻15期生 谷川 奈津子さん
三笠ケアセンター勤務

私は卒業後、社会福祉法人三笠苑の老人保健施設三笠ケアセンターに就職し、現在介護主任として勤めています。私は働く中で、初心に戻り、入所者の立場に立った介護を日々心掛けています。入所者と関わり笑顔を見る度、介護という道に進んでよかったと感じます。

学生時代の経験が土台となり、自信につながっています。短大を卒業した今でも勉強の毎日ですが、とても楽しく働かせて頂いています。



キャンパス再発見～ポプラ並木～ Vol.1

皆さんは自分が住んでいる場所、通っている学校の景色をゆっくりと眺めたことがありますか。普段自分が生活している中には、意外と知らない景色があります。このシリーズを通して、キャンパス内にある景色を短大の先輩や大学生活を送っている皆さんに再発見してもらいましょう。

まず紹介する景色は、体育館裏にあるポプラ並木です。自転車で通学している人なら分かる人もいるかもしれませんが、意外と知らない人も多いのではないのでしょうか。体育館裏という目立たない場所にあります。春には花を咲かせます。春の風に吹かれながらどこまでも続くその姿には、人を引きつける美しさがあり、キャンパス内であることを忘れさせるような自然の生き生きとした姿を感じさせます。足を運ぶだけの価値があります。是非確かめて下さい。



(学生記者 野宮 健太)

謎に包まれる寮生の生活 Vol.1

こぶし会館は短大生が生活する女子寮です。点呼と食事の時間には寮生が当番制で放送をします。朝食は月、水、金曜日がパンで、クロワッサンに特に人気集中します。夕食は毎週木曜日にカレー、シチュー、ハヤシライスなど、デザートも1つ付き。週の楽しみです。土日にはそばやうどんも出ます。

お風呂は大浴場で、ゆったり入ることができます。19時過ぎには混み合うため、その時間帯は注意です。

また、すれ違った人には必ず挨拶をするという素敵な習慣もあります。学科の友達が出来るといったメリットもあります。寮生しかわからないこぶし会館の謎、少しはお分かり頂けたでしょうか。



(学生記者 粟谷 絵梨)

寮生活			
6:00	起床・点呼	20:00-21:00	入浴
7:00-8:00	朝食	22:00-22:30	点呼・清掃
8:00-18:00	学校	22:30	夕食
18:00-19:00	夕食		

1人暮らしのレシピ Vol.1



一人暮らしの学生の方にお勧めなのがカレーです。カレーは長持ちするので、作り置きすると何食でも食べることが出来ます。

作り方は①フライパンを暖めて油を引き、玉葱のみじん切とひき肉バラバラになるように炒める。②全体に色が変わったら、ひき肉がつかるくらいの水、食べやすい大きさに切った人参やジャガイモを入れ煮込む。③野菜が柔らかくなったら、カレールーを入れる。味を見て必要なら塩・コショウを、スパイシーにするならカレー粉を、とろみが必要なら水溶き片栗粉を入れて、軽く煮込んだら完成。隠し味として、めんつゆ・すりおろしショウガ・すりおろしニンニク・ケチャップ・ウスターソースを入れるとさらに美味しさが増します。皆さん、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか。

(学生記者 高谷 いずみ)

考シリーズ～バッグ考～ Vol.1

通学にバッグは欠かせません。学生30人にどんなバッグで登校していますか、とアンケートをとったところバッグ派とリュック派に分かれました。割合はバッグ派で11人、リュック派で19人でした。そこで、何故そちら派なのか聞いてみました。

バッグ派からは、「出し入れがしやすい」「持ちやすい」逆に欠点は「片方の肩や腕が痛くなる」と意見が出ました。リュック派からは、「容量が大きい」「両手があく」欠点は「中身がぐちゃぐちゃになる」という意見がありました。それぞれ長短があるものですね。

リュック派とバッグ派どちらに分かれても、授業に使う教材は忘れないようにしたいですね。



(学生記者 田中 千香子)

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

幼稚園の特色を生かした活動の様子

附属第一幼稚園 <プールの日は楽しいよ>

幼稚園自慢の温水プールで、今日も水しぶきと子ども達の歓声が上がっています。水が怖いと泣いていた年少児も次第に興味を持ち、みんな大好きになります。年中児・年長児になると、ビート板を使ってバタ足の練習や、腰にヘルパーを付けて伏し浮きなどの練習にも取り組み、レベルアップに取り組んでいます。「プールのある日は、『早く幼稚園に行きたい』と言って喜んで子どもが登園する」と言う保護者は、「幼稚園に楽しみがいっぱいあることは、子どもにとって嬉しいことです。」とエールを送っていただきました。



附属第二幼稚園 <楽しさいっぱい誕生会>

4月のさくら誕生会から始まって12ヶ月の誕生会があり、お楽しみ会の一つです。

8月はねぶた誕生会、10月にはハロウィン誕生会と、先生方の独自性を発揮した余興が子どもを驚かせます。7月七夕誕生会には、心に浮かんだ願いを星に込めてカードに書きました。誕生会を楽しみながら1つ年を重ね、一人ひとりが賢く育っていきます。



附属第三幼稚園 <収穫待ちどおしいな>

第三幼稚園には広い菜園が2つあります。園児達はじゃがいも、さつまいもの他に、トマト、きゅうり、枝豆を植えました。ペットボトルでマイじょうろを制作して水をかけたり話しかけたりしてお世話をしました。夏休みにお家の人と一緒に畑に来たお友達は、「ちくちくするね」と野菜の育ちにびっくり。2学期はいよいよ収穫です。じゃがいもを持って近所のグループホームを訪問したり、枝豆パーティーをしたり、園児達の楽しい活動が広がります。



中央文化保育園



大好きなシャボン玉あそび

「しゃぼんだまとんだ やねまでとんだ♪」屋根よりももっとも高く、どこまでもとんでいけ！子どもたちの心もシャボン玉のようにふくらみます。

浦町保育園



交通安全教室

右を見て、左を見てと横断歩道の渡り方を学び、皆で、「ピッピー体操」を元気いっぱい踊り「とびださない」約束をしました。

先生達活躍しています 第4回

「私も幼稚園大好き！！」



附属第三幼稚園 **杉本 愛**先生

憧れの幼稚園教諭になり9年目を迎え、昨年度からリーダーを務めています。「幼稚園大好き！」の声を聞いた時に、もっと楽しませたいと思い、様々な保育を展開し、子ども達が「あっ」と驚くような環境を設定することに努めてきました。常に子ども達を目線に立ち、気持ちに寄り添いながら一緒に一つの事に取り組み、物事を達成させた時に上がる、「楽しかったね」「またやろうね」「ありがとう！」の声や素敵な笑顔、成長を目の当たりにして感動や喜びをもらいながら、充実した日々を過ごしています。

今後は、広い視野を持ち、アドバイス出来るリーダーになれるよう、日々の努力の積み重ねを大切にします。今後も、元気一杯の子ども達と共に、笑顔が溢れる園にしていきたいと思っています。

「年少組の担任をして」



附属第三幼稚園 **川原田 愛**先生

入園式で不安そうな瞳をしている子ども達に出会った時、この子どもたちにとって“家族の次に信頼できる、大好きな人”になりたい、と思いました。

そこで、子ども達が一つひとつの活動をゆくり丁寧に出来るように心掛けたり、絵や実物を使って分かりやすく説明したり、自分も一緒に輪の中に入って遊んだりして、楽しさや面白さが伝わるようにしました。また、「クラスだより」には、保護者が安心して子育てできるようなアドバイスを入れる等、園と家庭が相互に協力して見守る雰囲気作りを心掛けました。

今では子ども達の瞳から“不安”は消え、“まぶしい笑顔”がいっぱいになりました。これからは“心の安定”に少しだけ“刺激”をプラスして楽しい遊びを展開していきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

中央文化保育園 **本山 美保子**先生

『かえるをのんだととさん』

日野 十成 再話 / 斎藤 隆夫 絵 (福音館書店, 2008)

和尚さんと、ととさん(村人)の非現実的で途方もないやり取りが、子ども達を想像と空想の世界に引き込み、楽しませてくれます。

ある日、お腹が痛くなったととさんが、どうしたら治るかを和尚さんに聞くと、「腹に虫がいるからカエルを飲むと良い」とととさんでもない提案をします。そして、本当にカエルを飲み込んでしまうととさん。子ども達は驚きと、不思議な表情に包まれます。何かおかしいなあ。と思い始めても、話はどんどん進み、止まって考える間もなく、へんてこなイメージを重ねて楽しんでいます。スピード感あるストーリーに乗り、見入っていると最後にはお尻から鬼が出てくるという



愉快なお話。気が付くと現実の世界に戻され、子ども達と話の内容の余韻を楽しんでいます。

卒園児頑張っています

附属第一 幼稚園卒園 **大水 基史**さん



浜田小学校6年、大水基史です。

現在、この幼稚園でそろばんを習っています。年中から始め、今年で8年目になりました。10月の1級の試験に向けて、頑張っています。それに加え、水泳も習っています。昨年からはじめ、今ではバタフライもできるようになりました。これからは、そろばんは1級の試験に合格すること、水泳教室では、更に安定した泳ぎを修得し、いろんな種目にチャレンジしようと頑張っています。

僕が好きなスポーツは、野球です。4年生から野球部に入り、大会で敢闘賞を受賞する等の活躍をすることができました。沢山の試合の中で、幼稚園の頃に仲が良かった友達とも勝負することができました。

この幼稚園を卒園した人は、勉強面でも、運動面でも、活躍している生徒が沢山います。この幼稚園を卒園したことに、誇りを持っています。在園児の皆さんも、そろばんや英語を習って、小学校に向け頑張ってください。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

訃報 櫻庭せつ子名誉校長 御逝去

8月20日、青森中央文化専門学校櫻庭せつ子名誉校長が逝去されました。先生は昭和24年4月、青森裁縫学院（現青森中央文化専門学校）教諭就任以降、一粒の希望の種を育てていくことを「我が人生の喜び」と感じ、信念と情熱を持って本学園の発展に尽くしてこられました。また先生は本校校長の他、青森中央短期大学教授、青森中央短期大学附属第二幼稚園園長ならびに附属幼稚園総括園長等を歴任、生涯を通して教育・運営に携わってこられました。先生の並々ならぬ努力と、教育に対する信念・熱意は高く評価され、平成19年11月青森県褒章、平成22年11月には瑞宝単光章を受章されています。

「着る喜び、作る喜び」を惜しみなく教えて下さった櫻庭せつ子先生の心を、私たちは継承していきます。心よりご冥福をお祈りいたします。



櫻庭せつ子名誉校長略歴

昭和24年4月	青森裁縫学院教諭
昭和55年4月	青森中央短期大学 附属第二幼稚園園長
昭和58年4月	青森中央短期大学教授
平成2年4月	青森中央文化専門学校校長
平成3年4月	青森中央短期大学附属幼稚園 総括園長
平成22年4月	青森中央文化専門学校名誉校長

職場実習・インターンシップ体験記

青森中央経理専門学校

私は医療事務としてまちだクリニックで職場実習をしました。患者側として医療事務の仕事の様子を見た



ことはありますが、とても不安で緊張しました。私は、患者さんから診察券を受け取り、カルテを看護師の方へ渡す係を担当しました。悪戦苦闘しましたが、担当の方に優しく教えて頂きました。他にも、カルテの表紙作成や、処置伝票の作成も行い、「患者さんの様子を見ながらするといよいよ。」とアドバイスを頂きました。

実習を終え、改めて医療事務の仕事に就きたいと強く感じました。（2年 鷲尾 美香）

青森中央文化専門学校

私はファッションアドバイザーとしてFabric Jam青森店でインターンシップを体験しました。この実習を通して「百聞は一見にしか



ず」だと強く思いました。授業で学んだ声出し、たたみ方、接客の方法や注意点を理解し、実習に臨みました。実際に商品の検品やディスプレイを変えろという体験をし、臨機応変にアプローチや対応を変えながら、アドバイスやコーディネート提案をしていく接客方法を間近で見ることができ、とても勉強になりました。今後、観察力や柔軟性を更に鍛え、良い接客ができるよう目指します。（2年 荒内 真美）

専修学校准教員資格認定研修会

7月5日～7日の3日間にわたり、平成23年度 専修学校准教員資格認定研修会を行った。

この研修会は専修学校の教育内容充実のため、教育資質向上を目的として設けた「専修学校教員認定制度」に準じ、将来専修学校教員として指導の立場に就くことを前提に、教育者としての専門分野における基礎教育を受けるものである。専門学校学生と外部受講生が参加し、教育とは何か、教育の方法、専修学校について等学んだ。

経理発信情報 Vol. 2～経理事務コース～

10代から学ぶマナー講座

9月15日、「10代から学ぶマナー講座」と題して、弘前工業高校で講座を行い、2年生の佐藤裕規さんが講師アシスタントを担当しました。お金の使い方や、暮らしの中でのお金に関する知識、ファイナンシャルプランナーの仕事内容など、お金に関する基本的な知識について高校生を前にして講演をしました。参加した高校生は、講演内容に熱心に耳を傾け、中にはメモを取る生徒もいました。今後も、金融、税務、不動産などの基礎知識をより身近に感じてもらえるよう、講座を開催していきます。



おすすめ図書 vol.2

青森中央経理専門学校 佐藤 紋子先生
『なでしこ力 さあ、一緒に世界一になろう!』
佐々木 則夫 著 (講談社,2011)

今や「世界のなでしこジャパン」と言われるまでになでしこ達を育ててきた名監督、佐々木則夫さんが書き下ろしたこの図書は、「絆」がぎゅーりと詰まった本です。監督と選手の「絆」、スタメン選手と控え選手の「絆」、代表選手と代表選手になれなかった選手との「絆」・・・。「絆」があるから、決して自分勝手な理由で諦められない、「世界一になる」というパワーが湧いてくる様子が描かれていて、読み手が元気になっていきます。また、試合状況が繊細に描かれ、読みながら試合風景が目に見えてきます。

なでしこジャパン大好きという方、人を惹きつける力を養いたい方、最近心に元気がないという方、佐々木監督と世界一に向けて心を一にしながら読んでいけるお薦めの一冊です。

ファッション通信 vol.2

【2011 秋冬 主役はコート!】

ワードローブに1着は持っているコート。トレンチコートやダッフルコートなど、様々な素材やデザインのものがある。

今季は秋冬ならではの量感やウォーム感を備えたオーセンティック（本格的）なデザインがポイント。

また、注目色は「ダークレッド」。主役アイテムのコートをシックな赤茶、ブーツを同一色相にし、全体をシェード系（低明度の暗清色）で統一。アナロジー（類似）配色を使い、インナーにソフトな色をチョイスすれば、顔周りが明るく見え、やわらかいイメージになります。



(デザイン画 青森中央文化専門学校1年 渡邊 まい)

卒業生ピックアップ No.15

青森中央文化専門学校 平成22年度卒業
株式会社 アメリカ屋 斉藤 瑞穂さん

私は学生時代に学んだファッション販売、ファッションビジネスなどの資格を活かし、販売スタッフとして経験を積んでいます。毎日、自分の好きな服や雑貨に囲まれて仕事できて幸せです。接客はとても大変ですが、笑顔を忘れず、お客様とのコミュニケーション、信頼関係を大切にしています。ジーンズの知識は今でも未熟ですが、日々先輩方の接客で知識を吸収し学んでいます。

在校生の皆さんも、学生時代に多くの知識を吸収し、ファッション業界で活躍できるよう頑張りましょう。



インフォメーション

学生公演開催 12月17日(土) 於:フェスティバルシティアウガ5階

12月17日、青森中央文化専門学校、青森中央短期大学幼児保育学科学生による学生公演を開催いたします。学生達の日頃の成果をどうぞご覧下さい。

青森中央文化専門学校



Bunka Fashion Live 2011 『AnotherWorld』 ～仮想と現実～

日時：12月17日(土)
第1部 13:00～ 第2部 15:00～

会場：アウガ5階 AV多機能ホール

入場
無料

今年のBunka Fashion Liveは、テーマを「Another World」～仮想と現実～と題して開催します。形状豊かな立体的なデザインの衣装をはじめ、学園祭コスチュームショー「WORLD OF COLOR」で発表した世界をイメージしたオリジナル作品、卒業制作作品、そして、ファッション界に憧れを抱くスクールガールモデルが登場します。

また、展示ブースに於いて、ファッション甲子園入賞作品の展示も行います。

青森中央短期大学 幼児保育学科



41期生 卒業記念公演 ミュージカル『人魚姫』 「愛」～大切なものは心の中に～

日時：12月17日(土) 16:00～

会場：アウガ5階 AV多機能ホール

入場
無料

今年のミュージカルの演目は、アンデルセン原作『人魚姫』です。はかなくも美しい『愛』という難しいテーマを、造形、音楽、キャストのそれぞれの分野の学生達がプライドをもって1つの作品に作り上げ、涙ありスリルあり笑いありの、見ごたえのある素晴らしいステージとなっています。今回のアウガでの卒業記念公演にむけ、心からエールを送っています。

公開講座案内

図書館情報センター

●図書館カルチャー講座「小説を書こう」

会場：青森中央学院大学7号館 712教室 時間：18:30～20:00

日程	テーマ	講師
10月14日(金)	10月講座－小説作法の基本	笹田 隆志 (地元作家)
11月11日(金)	11月講座－会話・対話の書き方	古川 壬生 (脚本家)
12月9日(金)	1月講座－現代文学作品における様々な手法	瓜生 利吉 (青森ペンクラブ副会長)
1月20日(金)	2月講座－現在のトレンドと今後の展望	宮園 功夫 (元ちくま書房取締役・現海竜社編集部部長・日本文藝家協会会員)

青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●特別公開講座

会場：青森中央学院大学 学術交流会館 時間：13:00～14:20

日程	テーマ	講師
10月29日(土)	平野啓子「語り」と「朗読」 ～太宰治と宮沢賢治～	平野 啓子 (語り部・大阪芸術大学教授、元 NHK ニュースキャスター)

●公開連続講座「我が社の歴史・産業・文化」

会場：青森中央学院大学 学術交流会館 時間：13:00～14:20

日程	テーマ	講師
10月5日(水)	津軽弁で遊ぶ～「津軽弁の日」その前と後の津軽弁～	伊奈 かつべい (「津軽弁の日」やるべし会代表)
10月12日(水)	津軽三味線の魅力	山上 進 (津軽三味線奏者)
10月19日(水)	築城400年を迎えた弘前城の秘密	宮川 慎一郎 (弘前市商工観光部観光局弘前城築城400年祭推進室長)
10月26日(水)	青森県の埋蔵文化財③「是川縄文遺跡の魅力」	小林 和彦 (八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館館長)
11月2日(水)	青森県の文学③「少年・寺山修司と青森」	竹浪 直人 (青森県近代文学館主事)
11月9日(水)	青森県の美術館③ 「七戸町立鷹山宇一記念美術館古今東西」	大池 亜希子 (七戸町立鷹山宇一記念美術館学芸員)
11月16日(水)	青森県の農業③ 「田子にんにくの栽培から美味しい食べ方まで」	佐野 房 (JA 八戸監事・元 JA 田子専務理事)
11月30日(水)	新聞産業は最強の情報ツール	松田 修一 (東奥日報社編集局次長・編集委員室長)
12月7日(水)	津軽鉄道の生き残りをかけた戦略	澤田 長二郎 (津軽鉄道株式会社代表取締役社長)
12月14日(水)	一人の志が天下の大事に通ず ～明日に地球が減びようとも今日私はりんごの木を植える～	蝦名 武 (東北エネルギー経済総合研究所所長・前青森県副知事)

●留学生による会話教室

教室	日程	時間	回数
ベトナム語	11月8日(火)～11月22日(火)	18:30～19:30	毎週火曜日・金曜日 全5回
韓国語	12月2日(金)～12月16日(金)	18:30～19:30	毎週火曜日・金曜日 全5回

青森中央短期大学

●公開講座

会場：青森中央短期大学 時間：10:00～

日程	内容	講師
12月10日(土)	クリスマス親子クッキング	木村 亜希子

附属第一幼稚園・附属第二幼稚園・附属第三幼稚園 中央文化保育園 浦町保育園

●平成24年度入園願書受付 11月1日(火)より随時受付

●イルミネーション点灯式 12月1日(木) 大学正門前にて

今年も恒例のイルミネーションを行います。光の共演をどうぞお楽しみ下さい。

■点灯期間 12月1日～1月末日 ■点灯時間 16:00～22:00

青森中央経理専門学校

●公開講座

会場：学術交流会館 時間：10:00～12:00

日程	内容	対象
11月5日(土)	学生によるパソコン教室 年賀状作成	一般



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、1月発行予定の83号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■83号応募締め切り：11月30日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

学校法人青森田中学園 情報公表

学校法人青森田中学園では、情報の公表を行っております。

最新の情報の公表は、ホームページ上にて掲載しておりますので、どうぞご覧下さい。

■ホームページ … <http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/index.html>

青森田中学園報「こぶしの花」第82号

発行日：2011. 10. 15

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

中村 實枝子

佐藤 紋子

赤坂 敦子

高橋 晴美

加藤 澄

牧野 晴子

坪谷 輝子

八木橋ひろみ

中田 尋美

学生記者

太田 諭志

佐藤 祐貴

柳谷 優衣

粟谷 絵梨

川崎 晴菜

高桑 健基

高谷いずみ

野宮 健太

木村 翔太

増井 誠也

田中千香子